

生涯学習やまがた



遊学館ホール



ホール調整室

ホール脇ギャラリー

ホール前ホワイエ

CONTENTS

- ② 特集
**世代別の学びを考える－シニア編－
学習活動・社会参加の効果とは**
- ⑤ 事業紹介
平成30年度山形県生涯学習センター事業紹介
- ⑥ たからびと④
三浦範靖さん（長井市）
- ⑦ 地域の取り組みを紹介します
県教育委員会（庄内地区）
- ⑧ information
**支え合いの仕組みづくりを考えるフォーラム・地域づくり人材育成セミナー
山形学講座・県立図書館等大規模改修工事のお知らせ**

遊学の風景／遊学館ホール
落語会「山辺どんぶり亭」

“自分たちが好きなことを自分たちで楽しむ”
町の落語好きが“山辺で落語が聴きたい”と始めたやまのべ落語愛好会こと山辺どんぶり亭。落語家とその隣に触れるうちに、落語の面白さ、奥深さにすっかり魅了され、会員も落語ファンも増え、活動も広がり、21年目に突入。現在は山形市の会場を中心に落語会を開催しているそうです。特にこの遊学館ホールは、広さや座席の配置、音響照明、座り心地など落語会にはぴったりの会場で、落語家からも落語ファンからも愛される最高のホールとか。

特集「世代別の学びを考える—シニア編— 学習活動・社会参加の効果とは」

医療経済研究機構 研究部主任研究員兼研究総務部次長 服部 真治氏

生涯学習や社会教育において、学習活動の成果や効果の数値化は難しいとされています。同様に、シニア世代の学習活動や社会参加の重要性は常々語られるものの、実際の効果や成果が伝えられる場面は多くありません。今回、具体的な数値データから、シニア世代における学習活動・社会参加の効果とその重要性、理想的なあり方について改めて考えるため、服部真治氏より寄稿していただきました。

日本の健康寿命は世界」と言われています。健康寿命の定義はいくつかあります。経済産業省が作成した資料※1によれば、日本人の健康寿命は74・9歳。つまり、65歳で定年を迎えて9年は健康に暮らしているということです。ちなみに、アメリカは定年が66歳で健康寿命は69・1歳ですから、定年後、健常な期間はわずか3年です。同様に、イギリスの健康寿命は71・4歳、ドイツは71・3歳で、両国とも定年は日本と同じ65歳ですから、欧米諸国と比較しても日本の健康寿命は際立っています。しかしながら、日本は平均寿命も83・7歳と長寿で、平均的には8年間、不健康な暮らしを経て亡くなっているとも言えます。PPK(ピンピンコロリ)が理想と

おっしゃる方が多いですが、まだまだ程遠いというのが現実です。

この健康寿命をいかに伸ばしていくのかということは、今後、さらに少子高齢化が進み、医療や介護の担い手不足が予想される我が国にとって極めて重要な課題ですが、自身の健康を誰が守るのかといえば、国や地方自治体、あるいは医師などの専門職に任せておけば安心というわけにはいかないでしょう。いわゆる生活習慣病の発症や重症化を予防するために、健康教育や特定健診、保健指導などの取り組みが熱心に行われていますが、最終的に生活習慣を改善するのはやはり本人です。国民一人ひとりが自身の健康について考え、その維持改善に取り組むことが必要であ

る」とは間違いありません。

とはいって、「健康のためにもっと歩きましよう」と言わても、それがなかなかできないのが人間です。知識としては十分にわかっているけれども、行動に移せないし、ましてや継続することは難しい。2000年以降、日本の健康政策は「健康日本21」という方針、計画の元で進められていますが、その最初の10年間の取り組み(第一次)では、日本人の歩行距離はむしろ短くなってしまいました。

そこで、改正された現在の「健康日本21(第二次)」では、生活習慣病の発症予防・重症化予防などに並んで、「社会参加の機会の増加」が必要とされました。趣味でもスポーツでも、あるいは学習活動でも、社会参加を推進することが重要であると位置づけられたのです。それは、この間のさまざまな研究で、社会参加による効果が明らかになってきたからでした。そこで本稿では、JAGES(Japan Gerontological Evaluation Study)、日本老年学的評価研究プロジェクト※2の研究成果をいくつかご紹介し、そこから今後の生涯学習や社会教育のあり方について考えてみたいと思います。

図表1は、9つの自治体で行われた

はつとり しんじ 服部 真治氏 プロフィール

1996年、東京都八王子市入庁。2005年より健康福祉部介護サービス課。その後、介護保険課主査、財政課主査、高齢者支援課課長補佐、高齢者いきいき課課長補佐を経て、2014年より厚生労働省老健局総務課・介護保険計画課・振興課併任課長補佐。2016年より一般財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会医療経済研究機構研究部主任研究員兼研究総務部次長。

約29,000人の65歳から74歳の前期高齢者を対象にした研究です。これまで、前期高齢者でも1年間におよそ2割の人が転倒していることがわかつていましたが、それを小学校区ごとに集計しました。横軸を前期高齢者のスポーツ組織への参加率とし、縦軸を前期高齢者の1年間の転倒割合として、64の小学校区のデータをプロットしました。その結果、1年間に転倒したことのある人の割合は小学校区によって大きな差があり、最小で7.4%から最大で31・1%まで、およそ4倍もの差があることがわかりました。つまり、世の中に「転びやすい町」と「転びにくい町」があり、スポーツ組織への参加割合が高い小学校区ほど転倒する人が少ないと思

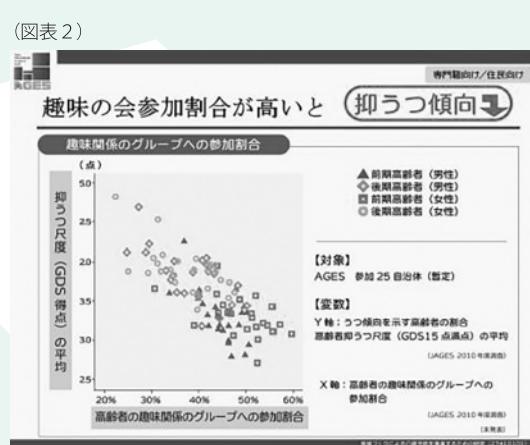
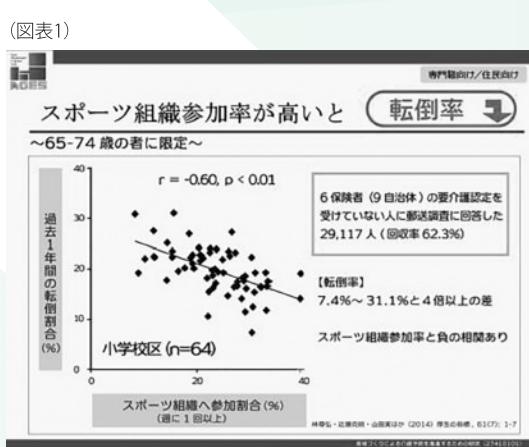
※1 経済産業省 次官・若手プロジェクト「不安な個人、立ちすくむ国家～モデル無き時代をどう前向きに生き抜くか～」,2017

いう関係があることがわかりました。

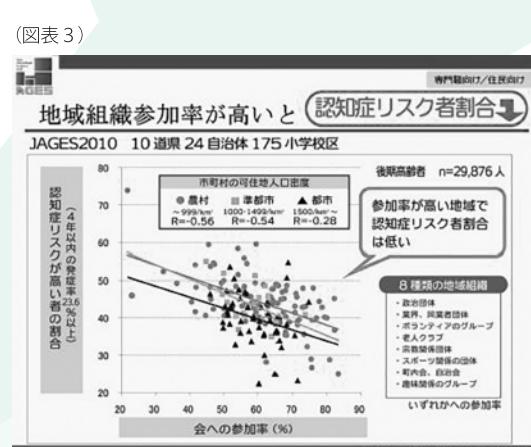
うつについても同様です。図表2は、2010年に要介護認定を受けていない高齢者約10万人を対象に25の自治体で行われた調査に基づく分析です。横軸を趣味関係のグループへの参加割合とし、縦軸を抑うつ傾向があらわす得点(GDS得点)の平均値として、25の自治体×男・女別×前期高齢者・後期高齢者別の100データをプロットしました。グラフから読み取れるように、「うつ傾向の人が多い町」と「うつ傾向の人が少ない町」があり、さらに、趣味関係のグループへの参加割合が高い地域ほどうつ傾向の人が少ないという関係が明らかになりました。

図表3は、シニア層の関心が特に高い認知症についての研究です。24の自治体、175小学校区の後期高齢者約3万人を対象として行われた調査データを小学校区ごとに分析しました。グラフは、横軸をボランティアグループ、スポーツ関係の団体、趣味関係のグループなど8種類の地域組織のいづれかに参加している人の割合、縦軸を認知症リスクの高い後期高齢者の割合として、175の小学校区のデータをプロットしたものです。その結果、認知症リスクが高い人が75%近く住む小学校区と、20%強の小学校区があることなどがわかりました。そして、地域組織への参加率は農村と都会では異なると考えられますので、農村を

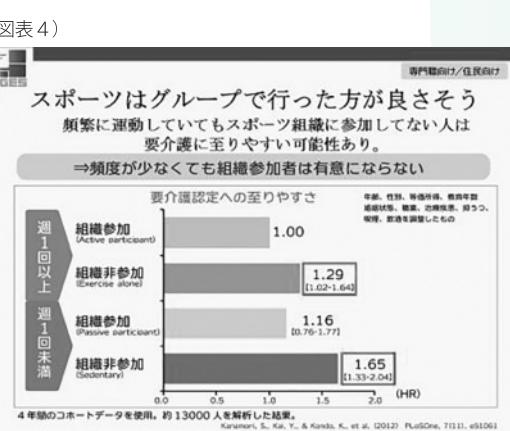
は、2010年に要介護認定を受けていない高齢者約10万人を対象に25の自治体で行われた調査に基づく分析です。横軸を趣味関係のグループへの参加割合とし、縦軸を抑うつ傾向があらわす得点(GDS得点)の平均値として、25の自治体×男・女別×前期高齢者・後期高齢者別の100データをプロットしました。グラフから読み取れるように、「うつ傾向の人が多い町」と「うつ傾向の人が少ない町」があり、さらに、趣味関係のグループへの参加割合が高い地域ほどうつ傾向の人が少ないという関係が明らかになりました。



図表3は、シニア層の関心が特に高い認知症についての研究です。24の自治体、175小学校区の後期高齢者約3万人を対象として行われた調査データを小学校区ごとに分析しました。グラフは、横軸をボランティアグループ、スポーツ関係の団体、趣味関係のグループなど8種類の地域組織のいづれかに参加している人の割合、縦軸を認知症リスクの高い後期高齢者の割合として、175の小学校区のデータをプロットしたものです。その結果、認知症リスクが高い人が75%近く住む小学校区と、20%強の小学校区があることなどがわかりました。そして、地域組織への参加率は農村と都会では異なると考えられますので、農村を



●、準都市を■、都市を▲と区別してプロットしていますが、いずれも右下がりで、農村においても、準都市においても、都市においても、地域組織への参加率が高い小学校区ほど、認知症リスクの高い高齢者が少ないという関連があることが明らかになりました。



が必要になります。そこで、図表4は介護認定を受けていない高齢者13,000人を4年間追跡調査したもので、これは転倒ではなく、要介護認定への至りやすさを見ています。スポーツのグループに参加している人と比べて、週1回未満の人には1.16倍、要介護に至りやすい。つまり、運動をすることが要介護認定のリスクを下げるという因果関係があります。また、さらに注目すべき点としては、グループに参加せずに運動を週1回以上行っている人でも1.29倍のリスクで、これは転倒ではなく、要介護認定への至りやすさを見ています。スポーツのグループで行なった方が介護予防の効果が高いことが示唆されたということです。

*2 健康長寿社会をめざした予防政策の科学的な基盤づくりを目指した研究プロジェクト。2010年、2013年に10万人超、2016年にはさらに参加市町村が拡大して、39市町村約20万人の65歳以上の要介護認定を受けていない高齢者を対象に大規模調査を行い、全国の大学・国立研究所などの30人を超える研究者が多面的な分析を進めている。

なぜ、グループで行った方が効果が高いのでしょうか。図表5は65歳以上の男女約2,700人を3年間追跡調査した結果です。趣味の会、スポーツの会、町内会、ボランティア、老人クラブなどのグループへの参加有無から社会参加の程度を判定した結果、「多くの社会参加をしている人」は「あまり社会参加していない人」に比べ、男女ともに3年間で新たにうつ傾向になる確率が低いことが明らかになりました。また、この研究では、参加するだけでなく「役割を持っている人」の方がうつ傾向になる確率が低いことが明らかになりました。特に男性では、「多くの社

会参加している人」同志で比較した場合でも、「役割をもっていない人」のうつ傾向は8.5%で、「役割を持つている人」のうつ傾向は1.2%ですから、うつ傾向になるリスクが実際に7分の1になっています。つまり、社会参加とうつ傾向には因果関係があると考えられ、特に役割を持つて社会参加することの効果が大きいことが示唆されたのです。

以上の研究成果からわることは、一人ひとりがスポーツをしているか、趣味関係のグループに参加しているか、地域組織に参加しているか、とくと健康との間に関連があるかどうかではなく、その地域の会(グループ、組織)への参加割合と、転倒、うつ、認知症リスクが関連しているということです。また、一人でスポーツに打ち込むことも決して悪いことではありませんが、グループで行った方が効果が高いという研究成果もありました。

地域にそういった活動があつて、楽しく取り組んでいる人たちがいて、あなたもと誘われたりするから、「では、参加してみようか」と思い立つたり、「今日は天気が悪くて気が進まないけど、でも仲間がいるから」と活動を継続することになるのではないでしょうか。私たちも体験で知っていますが、いざ体を動かしたり、仲間と笑いあつたりすれば、やはり今日も参加して良かつたと思うものです。さらに「役割」とは、グループに参加して初めて生まれるものです。「役割」を持つて社会参加する方が健康への効果が大きいのであれば、スポーツ組織や趣味関係のグループ、地域組織を増やしたり、それらに参加しやすくしたりすること、つまり、個人に対するアプローチだけでなく、地域に対するアプローチが必要だということになります。

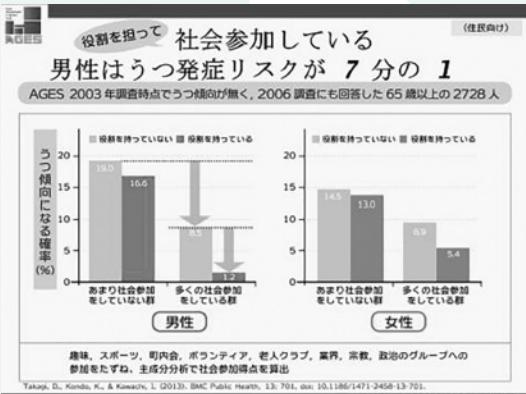
言い換えるば、これまでのように個人の責任や努力に期待するだけではなく、地域に対するアプローチが必要なことになります。

かではなく、その地域の会(グループ、組織)への参加割合と、転倒、うつ、認知症リスクが関連しているということです。また、一人でスポーツに打ち込むことは決して悪いことではありませんが、グループで行った方が効果が高いという研究成果もありました。

地域にそういった活動があつて、楽しく取り組んでいる人たちがいて、あなたもと誘われたりするから、「では、参加してみようか」と思い立つたり、「今日は天気が悪くて気が進まないけど、でも仲間がいるから」と活動を継続することになるのではないでしょうか。私たちも体験で知っていますが、いざ体を動かしたり、仲間と笑いあつたりすれば、やはり今日も参加して良かつたと思うものです。さらに「役割」とは、グループに参加して初めて生まれるものです。「役割」を持つて社会参加する方が健康への効果が大きいのであれば、スポーツ組織や趣味関係のグループ、地域組織を増やしたり、それらに参加しやすくしたりすること、つまり、個人に対するアプローチだけでなく、地域に対するアプローチが必要なことになります。

地域の住民をはじめとした多様な関係者・関係機関が「我が事」として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて、「丸ごと」つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがうかということです。そのためには、まずは人と人をつなぐことが大切で、定年で退職しても地域で役割を持ち続けられるように、仕事をしているうちから地域につなぐ支援や環境の整備・改善などが求められます。地域づくりとなれば、地方自治体が健康施策、介護予防施設として行っている疾患予防や介護予防に関する様々な事業や取り組みだけではなく、生涯学習や社会教育、あるいは市民協働、都市

(図表5)



平成30年度

山形県生涯学習センター事業紹介

今年はここを頑張ります！

あなた やまがた たからびと

~1人ひとりの県民がいきいきと活躍する
「生涯学習社会やまがた」を目指して~

情報提供



山形県生涯学習情報提供システム「やまがたマナビィnet」

- 学習情報収集提供事業
「やまがたマナビィnet」*Pick up!*
- 長寿社会づくり推進事業
- 「ふるさと塾」推進事業

山形県生涯学習文化財団ホームページ上の「やまがたマナビィnet」では、県内の講座・イベント、講師・指導者、団体・グループ、施設等の情報提供を行っています。地域・学校・家庭いずれの場でもご活用いただける情報が満載です！

人材育成



ワークショップ等で楽しく学ぶ各種セミナー

- 生涯学習関係職員研修事業
パワーアップセミナー
- 地域づくり人材育成セミナー *Pick up!*
- 生涯学習活動普及促進事業
広報紙『生涯学習やまがた』発刊
- シニア地域実践活動支援事業

行政職員向け研修のほか、官民それぞれの立場を活かした地域づくりに向けて、行政職員だけでなく興味関心のある県民も対象に、研修を行います。今年度は「地域振興」と「情報発信」がテーマ！必要なスキルを楽しく学びます。

Check ! P8



現地研修やトライアルで学ぶ養成講座

- 高齢者生きがいづくり・生活支援
活動人材育成等事業 *Pick up!*
- フォーラム、担い手養成講座
- 分野別研修（食事支援・移動支援）
- フォローアップ研修
- 生活支援コーディネータースキルアップ研修

高齢者が住み慣れた地域で自立した生活を続けられるよう、行政・専門家・企業・住民が支え合う仕組みづくりが必要です。入門編のフォーラム、実践的な担い手養成講座のほか、今年度は「移動支援」や「食事支援」を学ぶ分野別研修も行います！

Check ! P8

学習機会提供



山形の魅力を講義や現地学習で学ぶ山形学講座

- 「山形学」推進事業
山形学フォーラム
- 山形学講座 *Pick up!*
- 地域学交流集会

全国の地域学の先駆けであり、県内においても先導的な「山形学」。毎年さまざまな切り口で山形の資源を掘り起し、その魅力を探っています。今年度は「方言」をテーマに、講義や現地学習で学びます。実践者が集う地域学交流集会もお見逃しなく！

Check ! P8



各地の多彩な団体が行う「山形学」地域連携講座

- 「山形学」地域連携講座支援事業
- 生涯学習活動支援事業 *Pick up!*
- 生涯学習活動実践団体との連携事業

市町村や学習文化施設が行う生涯学習事業への支援、生涯学習活動を実践している団体への支援など。さらに、未来の地域の担い手である県内青少年の地域学習や地域づくり活動を支援するため、県内高等学校の課外活動を新たに支援します！

あなた やまがた たからびと

interview

み うら のり やす 三浦範靖さん 『ゆわしえでもらえもす』著者(長井市)

県内で自ら学び続け、いきいきと活躍している方を「たからびと」として、インタビュー形式でご紹介します。今回、高齢者向けの方言読み書き帳や方言の童話や戯曲、かるたなど、あふれるアイディアを次々と形にして、長井の方言を残す活動をしている三浦範靖さんにお話を伺います。

両親を30代で亡くしたので、親孝行をしたい、世話になった地域の人たちに恩返しをしたいという気持ちが常にありました。退職後に自分の住む清水町でミニディサービスを立ち上げようという話が出た時、これはチャンスと思い、関わるようになりました。利用者さんや協力員さんと話をしていく中で、清水町は県内外のさまざまな方言を話す人が集まっていることに気づきました。地元企業の工場勤務のため全国から人が入ってきて住みついた地域だったのです。

長井弁には「ありがとう」の表現でも（おしゃうし）（おしゃうしなっし）（おしゃうじでござります）など、たくさんの使い方があります。それら何の不便も感じず使っていた長井弁を書いて読むことが意外と難しかったり、方言について語り合うことや昔のこと思い出したりして、脳トレにもなります。方言って面白いなと、その時つくづく思いました。その一方で、地域に暮らしていても長井の方言をわからない人たちもいます。私は【方言】はその地域の文化】だと思うのです。その地域を育んできた方言が使われなくなるということは文化が消えてしまうことです。残さなきやいけないと思いました。それで、童話を方言で書いたり、脳トレに使ったために方言の読み書き帳をつくったり、趣味の音楽も活かして方言の歌つきの戯曲をつくったりして皆さんに活用してもらっています。

一方言読み書き帳出版のきっかけは?

両親を30代で亡くしたので、親孝行をしたい、世話になった地域の人たちに恩返しをしたいという気持ちが常にありました。退職後に自分の住む清水町でミニディサービスを立ち上げようという話が出た時、これはチャンスと思い、関わるようになります。利用者さんや協力員さんと話をしていく中で、清水町は県内外のさまざまな方言を話す人が集まっていることに気づきました。地元企業の工場勤務のため全国から人が入ってきて住みついた地域だったのです。

長井弁には「ありがとう」の表現でも（おしゃうし）（おしゃうしなっし）（おしゃうじでござります）など、たくさんの使い方があります。それら何の不便も感じず使っていた長井弁を書いて読むことが意外と難しかったり、方言について語り合うことや昔のこと思い出したりして、脳トレにもなります。方言って面白いなと、その時つくづく思いました。その一方で、地域に暮らしていても長井の方言をわからない人たちもいます。私は【方言】はその地域の文化】だと思うのです。その地域を育んできた方言が使われなくなるということは文化が消えてしまうことです。残さなきやいけないと思いました。それで、童話を方言で書いたり、脳トレに使ったために方言の読み書き帳をつくったり、趣味の音楽も活かして方言の歌つきの戯曲をつくったりして皆さんに活用してもらっています。

御年81歳、大事にしている習慣は?

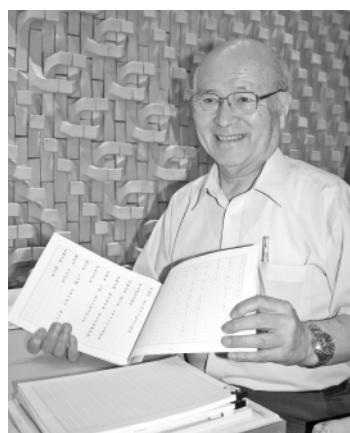
年寄りは朝早いので（笑）アイディアややつてみたいことを思いついたら、とにかく朝取り組んでいます。そうすると自分でも不思議なくらい文章も音楽も湧きでて、いつのまにか形になります。読み書き帳の続編や戦争体験のこと等まだまだ書きたいことやりたいことがたくさんあって一日一日が楽しいですよ。終活として、それらを形にして残していくたいと思っています。

それから、60歳過ぎまで企業で働いてきましたが、昔からお金を貯めるかわりに本を買って知識を得て、その知識をいろいろなことで使おうと心掛けてきました。興味のあることは独学ですが徹底して勉強しました。音楽も同じで、今でもパソコンの音楽ソフトで曲をつくって楽しんでいます。お金は使つたらなくなりますが、知識はなくなりません。貯めた知識を地域で活かして、喜んでわらえて更に次の人たちに伝えてもうしたら、本当に嬉しじゃんですよね。

皆さんのエールをお願いします。

若い時にやつたことが、今、私のエネルギーの源になっています。若い人たちには、専門でも雑学でも何でもいいから、いろんなことを若いうちからやりなさい、今やりなさい、失敗を恐れずにどんどんやりなさいと言いたい。いざれそれが必ず力になります。頑張ってください。

同世代の人たちには「歳をとった」と言わないことを伝えたい。肉体は衰えているかもしれませんけれど、それを言つたらおしまい。私自身、癌になつたこともあります。が医者に切つてもらえばそれで終わり。人生終焉の訪れがいつかはわかりませんが、「今日は今日だ」と割り切つてやっていくことが大事です。何をするか。昔やつたことをもう一度やってみる、そして昔を思い出してみる、必ずいいことがあります。それから、生涯学習を支えてくださる皆さんのお仕事は素晴らしいことです。利益や見返りを度外視したところに、結果が出来ます。個人個人で積み上げてきたたくさん知識やノウハウ、想いをどうやって引き出していくか、どうやって光をあててあげるのか。80歳なら80年×365日の想いがある。忘れてしまつていいポケットがたくさんある。そのポケットに光をあててあげるのも、生涯学習を支える方々のお仕事だと思います。頑張ってください。



まだまだ書きたいと語る三浦さん

地域の取り組みを紹介します

このまちに
注目!

山形県教育委員会 地域青少年ボランティア活動推進事業

『庄内地区YYボランティアセミナー サークルセミナー』

■ 内容 ■

昨年の12月に藤島地区地域活動センターにおいて、庄内地区の中高生とYYボランティアサークルの会員が集まり、「防災」をテーマにセミナーを開催。NPO法人明日のたね代表の伊藤和美さんを講師に、さらに東北大学大学院、鶴岡工業高等専門学校のみなさんの協力のもと、第1部では減災アクションカードゲームを、第2部ではポリ袋で味付けごはんやミニストローネ風スープ、オムレツを作りました。その後、地震発生直後の動き方や必携の持ち物を考えるワークショップを行いました。このセミナーを通して、中高生が交流を深めながら、防災活動に対する知識を学び、意識も高めることができたと思います。

■ ここがうまくいった ■

中高生が交流しながら、楽しく防災についての知識を深めたり、調理活動をしたりできました。料理も安価なうえ、手軽にでき、味も大変おいしかった。

■ ここが大変 ■

細心の注意をはらいながら、安全に活動を見守る必要があった点(ガスコンロを使用。ビニル袋に具材を入れて調理するため、熱くてなかなか持てない。また包丁は使わず、缶詰のふたで、野菜等を切る活動も苦労した。)



参加者
Voice

防災をテーマに様々な切り口で学ぶことができた。防災料理を作ることは、電気、ガス等のライフラインを節約できることが分かった。すごく楽しかったし、ごはんがとてもおいしかった。

広報紙「生涯学習やまがた Vol.13」

①「生涯学習やまがた」を読むのは

- 初めて 時々 毎号

②どこで入手されましたか?

- 遊学館内 公民館・コミュニティセンター
 図書館 文化施設 その他()

③興味を持たれた記事は何ですか? (複数回答可)

- 特集 事業紹介
 たからびと 地域の取り組み紹介
 表紙 その他()

④内容について

- 良い まあまあ 不満

⑤その他 ご意見・ご感想・取り上げてほしいことなどを
お聞かせください。

よく耳にするけど
詳しく知ってる?

「YYボランティア」って?

「YYボランティア」とは、「山形ヤング(Yamagata Young)ボランティア」(地域青少年ボランティア活動)の意味で、中学生・高校生を中心とした青少年が学校の枠を超えて、地域で行っているボランティア活動をいいます。各市町村の公民館等を活動拠点として、企画・準備から運営まで自分たちが「やりたいこと」をじっくり話し合って活動を進めています。「YYボランティア」は昭和50年代に始まり県内各地へと広がりました。現在、県内で約50のボランティアサークルが活動しています。このような活動は他県にはあまり例を見ないことから「山形方式」と呼ばれています。

「YYボランティア」は、郷土愛を醸成し、中高生が将来の地域づくりに参画する入り口となるものとして位置づけられます。サークル員がボランティア活動を通して地域を知り、地域が抱える様々な課題に触ることで、課題を自ら解決する力を育み、自発的行動する青少年の育成につながる活動として期待されます。

山形県では教育庁文化財・生涯学習課、各教育事務所社会教育課、山形県青年の家等が連携・協働し、各種事業を通じてボランティアサークルの育成・支援を行っています。

「生涯学習やまがた」へのご意見ご感想をお聞かせください!アンケートにご協力いただいた方に、抽選で3名様に遊学館ブックス最新刊『小説による山形』(1080円)をプレゼント!締め切りは9月末です。
※アンケートはがきは、お手数ですが切手を貼ってお送りください。メール、FAXでもご回答いただけます。山形県生涯学習センター広報紙担当あてにご住所・お名前・ご回答など必要事項を明記し、(FAX 023-625-6415 E-mail yama@gakushubunka.jp)へお送りください。

Information Space

高齢者生きがいづくり・生活支援活動人材育成等事業入門講座

支え合いの仕組みづくりを考えるフォーラム

一般向け

関係者向け

高齢社会の現状や生きがいづくり、生活支援活動の必要性、地域住民が主体となるさまざまな生活支援活動の先進事例等について、基調講演やパネルディスカッションで学びます。

【村山会場】7月21日(土)13時～17時

遊學館(山形市緑町1-2-36)

【庄内会場】7月22日(日)13時～17時

庄内町余目第2公民館(庄内町払田字サビ40)

講 師 服部真治氏(一般財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会
医療経済研究機構研究部主任研究員兼研究総務部次長)

辻野文彦氏(八王子市福祉部高齢者福祉課主査)

目崎智恵子氏(高崎市第一層生活支援コーディネーター)

申 込 山形県生涯学習センター(下記)へ

山形学講座

どっこい方言は生きている

一般向け

「方言」の変化を巡る多様な今を通して、山形の魅力やあり方を再考し捉えなおしていきます。研究者、タレント、歌手ほか多彩な講師陣! 詳細はHPをご覧ください。

日 程 全5回(現地学習2回含む)

7月29日(日)・8月5日(日)・9月2日(日)

9月29日(土)・10月7日(日)

会 場 座 学/遊學館(山形市緑町1-2-36)ほか
現地学習/新庄市(第2回)・三川町(第3回)

料 金 5回3,500円(学生1,500円)

現地学習は昼食代他一部自己負担別途あり

定 員 80名(先着順)託児あり(要事前申込・座学のみ)

申 込 氏名・年令・郵便番号・住所・電話番号・託児有無を
明記の上、山形県生涯学習センター(下記)「山形学」
担当宛に、郵便はがき・FAX・メールにて。



仕事柄、今号の特集寄稿者である服部さんやたからびとの三浦さんのように素敵な方々、示唆に富む活動事例、宝石のように輝く文章や言葉に、日々出会うことができます。「だから生涯学習はやめられない」そんな私の感動を、この紙面を通して少しでもお伝えしていきたいと思います。皆さまのご意見ご要望お待ちしております。(A)

編集発行 (公財)山形県生涯学習文化財団 平成30年6月発行

山形県生涯学習センター 〒990-0041 山形市緑町1-2-36[遊學館]
TEL 023-625-6411 FAX 023-625-6415 E-mail yama@gakushubunka.jp
URL <http://www.gakushubunka.jp/yugakukan/>

開館時間 9:00～21:00[夜間利用が無い場合は19:00まで]

休館日 毎週月曜日、毎月第3日曜日、年末年始

洗心庵 [山形県生涯学習センター分館] 〒990-0041 山形市緑町1-4-28
TEL 023-664-2800 FAX 023-664-2816

開館時間 9:00～21:00[夜間利用が無い場合は19:00まで]

休館日 毎週月曜日、毎月第3日曜日、年末年始

地域づくり 人材育成セミナー

一般向け

関係者向け

官民それぞれの立場を活かし、協力して行う地域づくり、むけて「情報発信」と「地域振興」をテーマに、必要なスキルを、楽しく学んでいきます。

【村山会場】7月28日(土)10時～16時

遊學館(山形市緑町1-2-36)

【庄内会場】9月1日(土)10時～16時

酒田市公益ホール(酒田市飯森山3-5-1
東北公益大学内)

講 師 佐藤恒平氏(地域振興サポート会社まよひが企画 代表)
申 込 山形県生涯学習センター(下記)へ

—県立図書館等大規模改修工事のお知らせ—

平成30年度から31年度にかけて、図書館を中心とした改修工事が予定されています。これに伴い下記の研修室等の利用制限がなされる予定です。(今後、変更等はHPでお知らせいたします。)

第2研修室(3F) — 平成30年7月～当分の間

特別研修室(3F)

第4研修室(2F)

第5研修室(2F)

学習室(2F)

館 — 平成30年9月～当分の間

全

郵便はがき

9 9 0 0 0 4 1

お手数ですが
62円切手を
お貼りください

山形市緑町1丁目2番36号
山形県生涯学習センター 行

ご住所 〒

お名前

ご年代

代

ご職業

※読者プレゼントを抽選で3名様にお送りします。
ご住所は正確にお書きください。